

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティ はいばら		
所在地	静岡県牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果市町村受理日	平成31年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/222/index.php?action_kouhyou_detail_U22_kani=true&iqvosyoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31年 3月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方々との親交を深める地元のお祭りに参加し、交流を深めている。日常では、利用者様が安心して安全、かつ伸び伸びと生活出来る環境づくりに努めています。また併設しているデイサービスの利用者様と外部からのボランティアの方々などのイベントにも参加させて いただき交流の機会を提供しています。</p>

<p>サンシティはいばらの理念に基づき利用者が地域住民として地域との交流の下あきのこない暮らしを続けられるように管理者は、地域との交流や協力体制作りにも努めている。施設の祭りに運営推進会議を行なった。市職員や地元の住民・利用者・家族が多数参加して多数の意見が出、交流しながら楽しめている。地元の神社の祭りに参加して顔見知りの人と挨拶を交わしている。施設の周辺は自然が豊かで利用者は庭に出て花壇や畑の様子を見たり、川沿いの花を見ながら散歩をしている。職員不足を解消して利用者・家族に満足頂けるようなサービス支援が出来るように職員募集に力を入れた。食事専門の職員が入职してくれ、職員の負担が減ってきている。常に前向きに利用者の安心・安全と楽しめる環境作りに取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員一人一人が目につくように各フロアに掲示しており、実践に繋がれるよう努めています。	法人の理念を「サンシティはいばら」の理念として、事務所内や各フロアの壁に掲示している。又、運営推進会議の議事録とパンフレットに掲載している。事業所では「笑顔で話をする」目標を立て職員同士連携して支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地元の秋祭りには参加させていただいたり、昨年は実施出来なかったが施設の祭りにも地元の方々にも参加していただく中で交流を深めています。	事業所は町内会に加入し、「施設の祭り」を回覧に入れてもらっている。利用者は施設の祭りや地元の祭りに参加して交流している。事業所の周辺を散歩している時に会う住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現時点では活かしていないが、今後認知症サポーターに入るなど貢献できるよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、市の職員・町内会長・民生委員に出席していただき、意見をきくなどしている。	毎回ではないが、必要なメンバーを揃え定期開催をしている。秋祭りを推進会議にして市職員・家族や地域の住民と交流している。家族から地震や津波時の質問があって、防災について話し合い、市への要望を伝えたり、地元の消防団との連携など会議で話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや介護福祉課の職員にわからない事など相談しご意見をいただいています。	管理者は市に提出する書類など窓口に出向き話している。地域包括支援センターから空情報の問い合わせがあると連携をとっている。市主催の介護事業所連絡会に参加している。行政機関から研修や出前講座などの情報が入ると活用するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設として拘束ゼロを掲げ、事務所には身体拘束マニュアルを置き職員が実践できるようにしています。	身体拘束廃止適正化委員会を3ヶ月に1度行い、拘束について勉強したり、職員間でグレーゾーンの質問や話し合いをして意識を高め、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関や施設内の扉等に施錠はなく、離床センサーの使用もない。	

静岡県(グループホーム サンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の利用者様の状態を把握し、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の手続きの際、ご家族には書面を提示し、管理者が説明し、改定時には文面で通達を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けご家族の意見を頂けるようにしている。面会に来ていただいた際には職員が声を掛けるなどし、意見を聞くようにしている。	家族の面会時や電話で日頃の様子などを伝え意見を聞くようにしている。聞いた意見は記録し検討して反映させるようにしている。施設の秋祭りを運営推進会議にあわせて開催したことで家族の参加も多数あり意見や感想など聞ける機会になった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が職員と個々に話す機会を設け職員の意見を聞き、運営に反映させている。	管理者と職員は話し易い関係で、レクリエーションの材料など必要な物品の購入希望や利用者が喜ぶ行事の提案など即叶えられている。職員の希望で介護技術向上の勉強や資格取得の意欲のある人に出前講座に来てもらうなどの取り組みをしている。	職員の希望の介護のスキルアップや資格取得など環境を整え反映されるような取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修など、諸君の力量を理解し受ける機会を設けている。		

静岡県(グループホーム サンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	牧之原市主催の講習会に参加するなどし、同業者(管理者)同士話し合いをしたりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中、利用者様と関わりを持ち、ニーズ要望などを聞き出し利用者様が安心して生活出来る環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを作成する際には、ご家族様・利用者様に要望・不安材料などを聞き、サービスに活かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には利用者様とご家族様を交えた面会を行い、どんな支援が必要かを見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事(掃除や洗濯)などを手伝ってもらい、出来ないと決めつけず支援していけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態を手紙や面会時に伝え、共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から通われていた美容院に通っていただけるよう支援したり、地元の祭りに参加する事で関係の維持に努めている。	地元から入居している人がデイサービスに知人が来たとき交流できるように支援している。施設周辺が馴染みの場所である人も多く、落ち着いて過ごせる環境がある。利用者同士や職員、訪問理美容師などが馴染みの関係になっている。	

静岡県(グループホーム サンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通じ利用者様同士が関わりを持っていけるようにサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、居宅のケアマネージャーにも相談したりし対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話をしたり関わりを持っていく中で思いや要望を聞き出来る限り本人本位に出来るように努めている。	会話の中から思いや希望を聞けることがある。職員は常時利用者の目や顔つき、表情の変化に注視していて、気持ちや気分をくみ取っている。状況に合わせて声掛けし、反応を見て気持ちを理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴・環境などを本人やご家族に聞き出すとともに、担当のケアマネージャーからも情報をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、健康状態を把握するとともに、会話の中で心身状態も把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族には要望等を確認し、それをもとに職員間で話し合いケアプランを作成している。	普段の会話の中から本人の意向を聞いて、面会時や電話等で家族の希望を聞いている。管理者・介護支援専門員・職員で担当者会議を開き、本人・家族の思いに添えるよう話し合いを行なっている。、会議の結果を基に現状に即した介護計画書を作成し、家族の確認を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を作成、その時々をケアを介護計画に活かし実践できるように努めている。		

静岡県(グループホーム サンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況やニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、地域交流ボランティアの慰問等で豊かな暮らしを提供できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は出来る限り職員が同行し、日々の様子・状態の変化を医師に伝え、医師の指示を仰げるようにしている。	全利用者は普段の様子が解る職員が2ヶ月に一度の定期受診や他科受診の支援をキロ50円の有料でしている。変化があれば家族に伝えている。現在は医師の受診や服薬の無い利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職は不在な為、訪問看護利用等を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはフェースシートなどで情報提供を行い、退院前には本人に面談し状態の把握、退院時には医療機関から看護サマリーをいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する詳しい説明をし、終末期にはご家族・医療機関・施設が協力できるよう努めている。	入所時に看取りの指針を説明し、意向の確認をして同意書を交わしている。状態が悪化してきた時受診は家族と管理者が同行している。事業所での看取りを希望した場合は訪問看護との契約をして、主治医と訪問看護師との連携と家族の協力があって、看取り支援をするようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。		

静岡県(グループホーム サンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度防災訓練を行い、消防署立ち合いの訓練も行い避難訓練・消化訓練を行っている。	併設のデイサービス事業所と合同で訓練を行っている。消防署が立会いの下、夜間を想定して火災発生時に夜勤者2人で連携して避難訓練を行った。地元の消防団や近くの住民に災害時の協力は得られるようになっている。地震などの災害時に10人位の受け入れを市や地元へ伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様との会話時には視線を合わせ会話するよう心掛け、トイレなどの声掛けは他の利用者様には聞こえないようにするなどプライバシーを損ねないよう心掛けている。	職員は利用者の今の状況や状態を見て声かけるようにして、あまり距離感を感じさせない、温かみで丁寧に対応している。入浴時や排泄時は羞恥心に配慮して嫌な思いを抱かせないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を言いやすい環境を作るために日常での会話を大事にし、職員がきめるのではなく選択出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など、決まってしまう事もあるが強要するのではなく、利用者様と話し、決めていくよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で馴染みの美容院でカット出来るように支援している方もいる。服装は職員が決めてしまうのではなく利用者様と一緒に決めるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める際には、利用者様に何か食べたいものがないかを聞いたりし、食べたいものがあれば提供できるようにし、食器拭きなど出来る事は手伝っていただくようにしている。	昼食は併設のデイサービスの厨房から届く。朝食と夕食はある材料を見て利用者さんに食べたい物を聞くなどして献立を立て職員が作っている。職員は利用者と同じ物を一緒に食べ、声掛けし会話をしながら美味しく食べられるよう支援している。外食で回転寿司に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が1日1000ml~1500ml摂れるように水分を摂りたがらない利用者様には、好きな飲み物を提供するなどしている。		

静岡県(グループホーム サンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には口腔ケアの声掛けを行うとともに、必要に応じ、付き添い・ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来るように一人一人の排泄の流れを把握しトイレ誘導を行ったりしている。	全介助の人や夜間のみポータブルトイレ使用の人、トイレ誘導する人に夜勤者は時間を見て対応している。自立で行ける人にも後の確認をし記録をつけている。歩く等運動をすることでADLを確保してトイレでの排泄を継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は体操などで体を動かすように支援し、水分摂取には牛乳や個々にはヤクルトを飲んでいただく事で便秘にならないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は、利用者本位では支援できていない。	1日2～3人を午前中に入浴するようになっている。同姓介助の希望はないが相手の気持ちに添えるよう配慮している。拒否する人もいるがトイレに行った後、隣の浴室へ誘導するなど声掛けの工夫や日を変える等して週3回は入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者様が個々に過ごしたいように過ごしてもらおうようにし、居室で休みたい方はいつでも休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方箋を確認する事で目的や副作用を理解出来るように努め服薬後の症状の変化には気づけるように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵に興味がある方には塗り絵などを提供し出来上がった作品を展示したり、食事後の食器拭きや洗濯物畳みなど出来る事を手伝っていただいている。		

静岡県(グループホーム サンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴・散歩などに出掛けるよう努めているが、一人ひとりの希望にそえてはなかなか出来てはいない。	玄関前の花壇や畑の様子を見て外気浴をしている。施設周辺は自然に恵まれ、天候を見て田んぼのあぜ道を車椅子で、歩ける人は川沿いや花を見ながら散歩に出かけている。外出レクリエーションでは花見や外食に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、利用者様個人でのお金の所持は無く施設で管理している。利用者様と一緒に買い物に出掛けたりした際には、希望の物を選んで購出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話したい時にはご家族様と電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は室温の調節を行い、季節を感じていただけるよう季節の絵を作って頂き、フロアや廊下に展示するようにしている。	採光がよく明るい。朝は窓を開け換気をしている。フロアの壁には立体的な紙の木に利用者と一緒に桜の花や紅葉など季節に合わせて替えて、一目をひく作品が飾ってある。利用者が職員が家から持ってきた生花や庭の花を活けて飾ってある。窓から見慣れた山や田畑を見て自然を感じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファーがあり、利用者様同士と一緒に座って会話したりし、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者様の馴染みのものを使用させていただき事で居心地よく生活できるよう工夫している。	深く広い棚にテレビや家族の写真、アルバムなどを持ち込んでいる部屋、自分で作業した塗り絵を多数貼っている等その人らしい部屋になっている。躓くことのない様、整理整頓して動線に配慮してベッドを配置してある。加湿の濡れタオルをかけてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや脱衣所など利用者様が自立した生活が送れるような環境づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティ はいばら		
所在地	静岡県牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/222/index.php?action_kouhyou_detail_U22_kan=true&iqvosyoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31年 3月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々との親交を深める地元のお祭りに参加し、交流を深めている。日常では、利用者様が安心して安全、かつ伸び伸びと生活出来る環境づくりに努めています。また併設しているデイサービスの利用者様と外部からのボランティアの方々などのイベントにも参加させて いただき交流の機会を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員一人一人が目につくように各フロアに掲示しており、実践に繋がれるよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地元の秋祭りには参加させていただいたり、去年は実施出来なかったが施設の祭りにも地元の方々にも参加していただく中で交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現時点では活かしていないが、今後認知症サポーターに入るなど貢献できるよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、市の職員・町内会長・民生委員に出席していただき、意見をきくなどしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや介護福祉課の職員にわからない事など相談しご意見をいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設として拘束ゼロを掲げ、事務所には身体拘束マニュアルを置き職員が実践できるようにしています。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の利用者様の状態を把握し、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の手続きの際、ご家族には書面を提示し、管理者が説明し、改定時には文面で通達を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けご家族の意見を頂けるようにしている。面会に来ていただいた際には職員が声を掛けるなどし、意見を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が職員と個々に話す機会を設け職員の意見を聞き、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修など、諸君の力量を理解し受ける機会を設けている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	牧之原市主催の講習会に参加するなどし、同業者(管理者)同士話し合いをしたりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中、利用者様と関わりを持ち、ニーズ要望などを聞き出し利用者様が安心して生活出来る環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを作成する際には、ご家族様・利用者様に要望・不安材料などを聞き、サービスに活かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には利用者様とご家族様を交えた面会を行い、どんな支援が必要かを見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事(掃除や洗濯)などを手伝ってもらい、出来ないことと決めつけず支援していけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態を手紙や面会時に伝え、共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から通われていた美容院に通っていただけるよう支援したり、地元の祭りに参加する事で関係の維持に努めている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通じ利用者様同士が関わりを持っていけるようにサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、居宅のケアマネージャーにも相談したりし対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話をしたり関わりを持っていく中で思いや要望を聞き出来る限り本人本位に出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴・環境などを本人やご家族に聞き出すとともに、担当のケアマネージャーからも情報をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、健康状態を把握するとともに、会話の中で心身状態も把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族には要望等を確認し、それをもとに職員間で話し合いケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を作成、その時々々のケアを介護計画に活かし実践できるように努めている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況やニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、地域交流ボランティアの慰問等で豊かな暮らしを提供できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は出来る限り職員が同行し、日々の様子・状態の変化を医師に伝え、医師の指示を仰げるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職は不在な為、訪問看護利用等を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはフェースシートなどで情報提供を行い、退院前には本人に面談し状態の把握、退院時には医療機関から看護サマリをいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する詳しい説明をし、終末期にはご家族・医療機関・施設が協力できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度防災訓練を行い、消防署立ち合いの訓練も行い避難訓練・消火訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様との会話時には目線を合わせ会話するよう心掛け、トイレなどの声掛けは他の利用者様には聞こえないようにするなどプライバシーを損ねないよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を言いやすい環境を作るために日常での会話を大事にし、職員がきめるのではなく選択出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など、決まってしまう事もあるが強要するのではなく、利用者様と話し、決めていくよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で馴染みの美容院でカット出来るように支援している方もいる。服装は職員が決めてしまうのではなく利用者様と一緒に決めるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める際には、利用者様に何か食べたいものがないかを聞いたりし、食べたいものがあれば提供できるようにし、食器拭きなど出来る事は手伝っていただくようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が1日1000ml～1500ml摂れるように水分を摂りたがらない利用者様には、好きな飲み物を提供するなどしている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には口腔ケアの声掛けを行うとともに、必要に応じ、付き添い・ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来るように一人一人の排泄の流れを把握しトイレ誘導を行ったりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は体操などで体を動かすように支援し、水分摂取には牛乳や個々にはヤクルトを飲んでいただく事で便秘にならないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は、利用者本位では支援できていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者様が個々に過ごしたいように過ごしてもらおうようにし、居室で休みたい方はいつでも休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方箋を確認する事で目的や副作用を理解出来るように努め服薬後の症状の変化には気づけるように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵に興味がある方には塗り絵などを提供し出来上がった作品を展示したり、食事後の食器拭きや洗濯物畳みなど出来る事を手伝っていただいている。		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴・散歩などに出掛けるよう努めているが、一人ひとりの希望にそえてはなかなか出来てはいない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、利用者様個人でのお金の所持は無く施設で管理している。利用者様と一緒に買い物に出掛けたりした際には、希望の物を選んで購出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話したい時にはご家族様と電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は室温の調節を行い、季節を感じていただけるよう季節の絵を作って頂き、フロアや廊下に展示するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファがあり、利用者様同士と一緒に座って会話したりし、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者様の馴染みのものを使用させていただく事で居心地よく生活できるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや脱衣所など利用者様が自立した生活が送れるような環境づくりに努めている。		

目標達成計画

作成日:平成 31年 4月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員不足の影響もあり、職員が希望する介護のスキルアップ・資格取得の環境が整っていない	職員一人一人のスキルアップが出来る環境を整えていきたい	施設内で出来る勉強会を定期的開催すると共に外部での研修などを受けやすいように努めていく	12ヶ月
2	11	職員の確保	職員の人数が安定し、利用者様への介護・支援の向上	牧之原市が推進している雇用計画を利用し職員の確保に努め、職員が働きやすい環境を作っていく	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。